

第2回観光戦略研究会 株式会社 JTB 取締役相談役 田川 博己 様

東京都公立大学法人では、観光戦略プロジェクトの一環で、プロジェクトに賛同して下さった業界の方々にお集まりいただき、新しい時代の観光のあり方を幅広く、多面的に、かつ深く研究する観光戦略研究会を実施しています。最終年度となる今年度は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、観光産業がこれまでに経験したことがない甚大な打撃を受け、依然として厳しい状況にあることを踏まえ、「コロナ後の観光をどう再興するか」をテーマとした研究会を開催致します。

2020年10月15日(木)に今年度第2回目の観光戦略研究会を実施しました。今回は株式会社 JTB 取締役相談役 田川 博己 様を講師に迎え、「ニューノーマル時代におけるツーリズム戦略」と題してご講演頂きました。

講師：田川 博己 氏 (株式会社 JTB 取締役相談役)



1971年、大学卒業後に日本交通公社(現株式会社 JTB)へ入社。米国法人日本交通公社取締役副社長、取締役営業企画部長、常務取締役東日本営業本部長などを経て、2008年に代表取締役社長に就任。2014年、代表取締役会長に就任し、2020年、取締役相談役に就任。東京商工会議所 副会頭 観光委員会委員長、日本商工会議所 特別顧問、WTTC(世界旅行ツーリズム協議会)副会長、日本エコツーリズム協会会長、ジャパンショッピングツーリズム協会会長、ロングステイ財団会長、山陰インバウンド機構会長、東京の観光を考える有識者会議委員などを歴任し、現在に至る。

講演の中で田川氏は、「渋沢栄一という言葉『逆境の時こそ、力を尽くす』というものがある。これが、パンデミックの今、観光業界に携わる我々に課せられた使命だろうと考える。コロナ禍で再認識できたことは、ツーリズム産業の社会的・経済的影響力の大きさだ。直接的なマーケットだけでなく、周辺のマーケットも含めると産業の裾野は巨大。これを踏まえ、感染防止対策をしっかりと行った上で、産業回復のための施策を打っていかなければならない。」と述べられました。

また、World Economic Forum の「観光分野における国際競争力ランキング 2019(TTCI レポート)」では、いくつかの指標で日本は1位となっています。その中で、「特筆したいのが公衆衛生。これは世界に誇れる日本の特徴であり、日本人にとっては当たり前のことが、外国人観光客にとっては魅力的に見える」と指摘されました。

コロナ禍においては、「三密回避の安心安全のガイドラインを策定する」、「新しい旅をデジタル社会(デジタルテクノロジー)の中で考える」、「新しい働き方・休み方(ワーケーション)」といった、新たなツーリズムを構築していく必要性を説かれた上で、「住んでよし訪れてよしの国づくり」を実現させるために、「地域の魅力を再確認すること」、「地域創生に寄与する観光の役割を認識すること」、「地域の宝である若者教育に力を入れること」の三点が重要であると述べられ、講演を締め括られました。